

# ともに生きる

## NHKスペシャル キラキラムチュー ～発達障害と生きる～

放送日：2022年12月3日 放送時間：49分



対象校種 高校・大学・教員

対象教科 学級活動・教員研修

### この番組の良さ



#### ● 発達障害のある子どもへの理解が深まる

近年、ニュースや書籍の中で発達障害について頻繁に取り上げられています。「発達障害」という言葉の認知は社会的に広がってきていると言えます。その一方で、誤った情報をもとに偏見や差別につながるような内容が語られることも多く見られます。番組では、発達障害の分類や、それぞれの特性について分かりやすく解説されていて、視聴者が発達障害について正しく理解できるように構成されています。また、実際に発達障害のある子どもたちが登場しているため、それぞれの子どもたちもつ特性について理解しやすくなっています。他にも、学校だけでなく医療や福祉機関とつながることの大切さや、発達障害のある子どもをもつ親の思いについての理解を深めることができます。

#### ● 子どもたちが生き生きと過ごすためのヒント

多くの保護者や学校教員は、発達障害のある子どもへの指導や支援の在り方に悩んでいます。好きなことに没頭して、やりたくないことに目が向かない場合はどうしたらよいのでしょうか。番組では、発達障害のある子どもたちが大人になったときの、「社会参加」と「自立した生活」が良好であったケースデータをもとに、好きなものとの関わりが大切であることがエビデンスとともに紹介されています。



執筆者  
京都教育大学  
専任講師 **鈴木英太**

### 番組活用のポイント

#### ● 発達障害についての基礎的な知識を再確認する

2022年の文部科学省の調査では、通常の学級に在籍する小中学生の8.8%の児童生徒に学習や行動に困難のある発達障害の可能性があることが示されました。これは35人学級であれば約3人の割合となります。そのような中、児童生徒が発達障害について学校で学ぶ機会はほとんどなく、将来教員になる大学生においても十分な知識を得る機会が少ないことが指摘されています。そして、現職教員においても、多くの人はこれまで発達障害に関する知識を十分に学んできたとは言えない状況が続いています。番組では、限局性学習症、注意欠如・多動症、自閉スペクトラム症について、それぞれの特性が解説されています。また、発達障害のある子どもたちが自分の特性を存分に発揮しながら生活している様子を知ることができず。発達障害についての基礎的な知識について確認しながら活用するとよいでしょう。

#### ● 保護者の気持ちの変化に寄り添う

数字が大好きな近野樹さんは、3歳のときに自閉スペクトラム症および注意欠如・多動症と診断されました。母の菜穂子さんはそのときの衝撃的な思いを語ります。また、集団行動に難しさを抱える樹さんを見た人たちが、「甘やかされている」と話しているのを聞くなど、母の菜穂子さんは多くの辛い思いをしてきました。そんな菜穂子さんを救ったのは地域の療育施設でした。療育施設に通う中で、菜穂子さんはそれまでの「苦手なことを克服する」から「好きなことを伸ばす」ことを大切に考えるようになっていきました。現在、樹さんは大好きな数字への関わりを中心として、規則正しい生活を送っています。発達障害のある子どもをもつ保護者の気持ちを理解し、寄り添うことはとても重要です。子どもたちやその保護者と関わる上で意識すべき大切な考え方について話し合うこともできます。

#### ● 自己理解、自己肯定感の大切さ

番組に登場する子どもたちは皆輝いて見えます。その輝きを作っているのは、何かに夢中になっていること、そしてそれを応援している周囲の存在です。番組では、「発達障害は僕のアイデンティティー」、「(発達障害は)自分の個性だから大切にしていかなければいけないもの」など、自分の特性を肯定的に捉える子どもたちの姿が描かれています。発達障害のある人は、自己を否定的に捉え、二次的な問題(不登校、ひきこもり、うつ病など)に移行しやすいと言われていました。自己理解と自己肯定感に着目することで、育ちの中で自己理解を深め、自己肯定感を育むことの大切さに気づくことができます。